

定例教育委員会会議録

平成30年1月23日

境港市教育委員会（平成30年1月23日委員会会議録）

招集年月日 平成30年1月23日 15時30分

招集場所 市役所第一会議室

開 会 14時30分 教育長宣言

出席委員 ① 松本 敏浩 ② 十河 淳 ③ 酒井 伊津子
⑤ 徳永 由樹 ⑥ 赤石 有平

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局参事 川 端 豊

教育委員会事務局長 藤 川 順 一

学校教育課長 影 本 純

学校教育課長補佐 高 濱 禎 彦

学校教育課長補佐 門 脇 克 美

生涯学習課長 黒 崎 享

教育総務課長補佐 松 本 昭 児

教育総務課係長 荒 岡 真 樹

傍聴者数 なし

会議書記 教育総務課係長 荒 岡 真 樹

提出議案 議案第1号 境港市中浜公民館長の任命について

協議事項 なし

報告事項 12月の行事報告、1月の行事予定など

布される献立表のQRコードを改善したほうがいいと思います。非常に興味深いことをされているのでどんなものだろうと思って見ようかと思ったら見えなかったのです。

○教育総務課課長補佐 改善するようにいたします。

○松本教育長 貴重なご意見ありがとうございます。なかなか事務局では気づきにくいところです。改善するようにしてください。そのほか質問はございませんか。

今年、初めてブラスフェスタを文化ホールで開催いたしました。前回までは小学校の体育館で開催をしていました。演奏の編成が大きくなると文化ホールのステージには収まらないということで。松本幸永先生のあいさつの中で窮屈だというお話がありましたが、委員の皆さんはご覧になってどう感じましたか。

○赤石委員 小学校体育館で開催された時をうかがいましたが、聴く方としましては床に座って見るよりは座席で音響がよい環境で見る方がいいかなと思いました。ただ、ステージの上は狭く、ピアノの移動を何回もしたりと大変かなと思いました。

○十河委員 今回初めて拝見いたしましたが、文化ホールは音響面が考慮されているところなので音もよく、みんなに聞いていただきたいと思いました。ステージは少し工夫が必要かもしれませんが、よい音響と設備の中で皆さんに音楽に慣れ親しんでいただきたい。

○松本教育長 私も皆さんがいすに座るということで落ち着いて音楽を聴いているように感じました。音響も迫力がありました。演奏された方がどんな感じであったか、意見を聞きながら今後の会場を決めていきたいと思います。

クロアチアのセーリングレーザーチームが境港を事前キャンプ地として選んでいただきました。実際にはクロアチアの単独チームではないのですが、メダリストが含まれる非常にレベルの高いチームが境港に来られるということで練習環境を市がどう作っていくのかということと、できれば市民との交流とか、学校との交流とかができればいいとも思っていま

す。また、これを機会に境港市のセーリングのレベルアップや機運を高めるきっかけになればと考えています。そのためには我々も何かを仕掛けていかなければなりません。そのあたりで今後ご意見をいただければと思います。アドリア海という非常にきれいな海に面した国から来たコーチが境港の海は非常にきれいで、人がとても親切であると言われて、それが境港をキャンプ地として決めた理由だということでした。世界のセーリングのメッカからきれいだと言われたこの世界に誇れる会場を市民にもアピールできればと思います。そのほか質問等はありませんか。(なし) それでは、引き続いて学校の在り方の方向性についての報告をお願いします。

○教育員会事務局長

学校適正配置庁内連絡調整委員会で1月17日に誠道小学校の今後の在り方について検討しまして、中間報告をいたします。委員会の中で校区審議会からいただいた答申の内容を確認しました。誠道小学校の他の学校とは違う極小規模の解消ということで在籍する児童のためにも適正な教育環境を早期に整備することです。平成32年度に新しい学習指導要領への移行がありますがこれを踏まえて早期に解消するというのが一番良いという答申をいただいています。その解消の方法としては、第一案として児童・学校が一番負担の少ない、一度に誠道小学校、余子小学校、中浜小学校の3校を統合して境二中に隣接する校舎を造り、小中一貫校を整備することで誠道小学校の極小規模の解消を図るという答申をいただきました。ただ、市の財政、その他の計画、小中一貫校の整備順番などを具体的には教育委員会を中心に検討していただくこととなります。もし早期に境二中校区の整備ができなかった場合には、第二案として誠道小学校と余子小学校が統合して、施設が整備できた際に中浜小学校と統合して小中一貫校を整備するという答申となっています。余子小学校、中浜小学校、誠道小学校の3つを統合しての小学校はどのくらいの建設費用が見込まれるかを検討いたしました。校舎、体育館、プール、グラウンド、外構と用地を含めると約25億円程度かかるのではないかと試算しました。校舎が17億円程度、体育館が約3億円、プールが約1億5千万円、グラウンドが約6千万円、外構が約1億6千万円、用地が約2万平米で約1億2千万円と考えています。財源として文部科学省からの

補助金が約7億円、防衛省からの空調機器整備の補助金が約1億7千万円、残りの約16億5千万円が市の一般財源と試算しました。それに基づいて早期開校を目指すとする、平成31年度にプロポーザルで設計の業者選定を行い、平成32年度から基本設計、平成33年度に実施設計、平成34・35年度で建設工事を行い、平成36年度が一番早い時期になります。設計についてはそれほど費用が掛からないのですが、建設工事に取り掛かるとかなりの費用が必要になります。財政課の財政計画の中で年度ごとの支出を見込んでいますが、平成34・35・36年度が財政的に苦しい時期で早期開校を目指した場合の建設工事の時期と重なりかなり厳しい状況になると試算しています。財政的なことで申しますと平成36年度が終わった、平成37・38年度で建設工事を行い平成39年度開校という段取りで進めると財政的な負担を軽減することができます。委員会では財政的なことを考慮すると平成39年度開校に向かうのが良いのではという話がでておりました。小中一貫校を整備するには用地の取得が必要となりますが、2万平米以上の土地を取得しないといけません。境二中周辺の土地を調べるとかなりの数の地権者がいますので買収交渉においてかなりの期間を要すると思います。また、文部科学省の補助もなかなか受けづらいという現在の状況もあり事業全体が遅れるのではないかという意見がかなりありました。それらを踏まえると、平成36年度整備完了を目指して進めましても、視察に行った多久市でも遅れがでたように本市でも土地が買えなかったり、補助金が受けられなかったりなどで整備が遅れる可能性が考えられます。そういった状況の中で誠道小学校の極小規模校が継続するということが危惧されます。そうすると誠道小学校の極小規模をまず解消するためには誠道小学校と余子小学校を統合することが一番必要ではないかと思われまます。学習指導要領が変わる平成32年度を目標に統合を進めて、統合と並行して、市全体の小中一貫校の整備を検討すべきではないかという意見が出ております。まだ中間報告なのですが、検討する中で境一中の校舎が築55年を超えているものがあり、境小学校でも築50年を超えているものがあり、校舎の老朽化を考えると境一中校区を先に整備するのが良いのではないかという話も出ております。ここまでが、委員会で検討された内容でございます。

な会合を持ちながら方向性ができていくことになります。我々もそういったことを見込みながら、早い時期に方向性を定めていきたいと考えています。現在、最終答申の第二案が現実的なものとなってきました。余子小学校と誠道小学校の統合を、吸収合併的なものとするか、対等なものとしての合併とするかといった点で、学校名や校歌もどうするのかという問題も出てきます。どういった方向での統合がいいのかということも検討しなければなりません。急に統合することになっても児童たちは受け入れることはできません。児童たちの準備と覚悟、自分たちで統合した学校を良くするんだという意識を持たせるために、今、教員は何をしていかなければならないかということも出てきます。さまざまな面で議論しながら子どもたちの意識を前向きにしていかなければなりません。ただ単に人数が減ったから統合しなければいけないという気持ちであれば、だれでも不適応を起こします。自分たちは余子小学校にとってはお客さんであるという意識は非常に大きいものになります。そういった気持ちを持たせないように、仲間であるという意識を育てながら統合の日を迎えなければなりません。そのことについてご意見はありませんか。

○赤石委員

子どもたちの心情を考えていろいろな準備が必要で、余子小学校と誠道小学校を先に統合するという方向に進むとするならば、両校の交流の時間を1年間とか期間をもってから統合に向かっていかなければならないと思います。

○松本教育長

以前、宮崎県五ヶ瀬町に視察に行きました。町に三つの小学校がありまして、すべての学校に複式学級がありました。児童数は誠道小学校よりもはるかに少ない状況でしたが、教育長はこれらの学校をすべて残すという方針でした。小さいことは、弱点ではなく強みであるという方針です。週に何回か3つの小学校が一つの学校に集まって、算数を習熟度で6段階に分けて授業を展開していました。同じテーマの問題でもレベル分けがしてあり、それぞれ違う問題を解いていました。そういったことをスクールバスを使いながら計画的にやっていました。学力は宮崎県でトップで全国でも上位でした。本市も授業、行事をバスを使いながら、日ごろから仲間として行えるようにバックアップをしていかなければならないと

思います。

○酒井委員

平成32年度の学習指導要領の改訂を踏まえて余子小学校と誠道小学校を統合をということでしたが、余子小学校も児童数が減ってきており、一学年に一クラスという状況も出てきています。一クラスの人数も二クラスに分かれない33人などぎりぎりの数の場合が多く、誠道小学校と統合することで二クラスになって一クラス20数名とちょうどいい人数になります。余子小学校の児童にとってもメリットになると思います。以前いただいた資料で年次ごとの児童の予定数を見たところ、余子小学校と誠道小学校の人数を足すとすべての学年が二クラスになるようになっていました。決して誠道小学校が一方的に統合されるということではなく、統合することは両校にとっても良いことだと思っています。

○教育委員会事務局長

平成35年度時点の試算では一番児童数が少ないのは誠道小学校ですがその次に少ないのが余子小学校になります。余子小学校と誠道小学校を合計するとおおよそ境小学校や外江小学校と同じ規模になります。

○学校教育課長

余子小学校と誠道小学校が統合することで一クラス20名前後になり児童に目が届きやすい人数になると考えています。

○松本教育長

そのほか質問等はありませんか。(なし)

【5. 閉会】

○松本教育長

それでは議題は終了しました。本日の定例委員会は閉会といたします。ありがとうございました。